

# 「栃高の日」新聞 第36号

発行者：校長 大橋芳樹 発行日：平成31年3月15日（金）

## \*\*「世界三大〇〇」シリーズ第12弾\*\*

「世界三大〇〇」シリーズ第12弾は、「世界三大悪妻」のお話です。「世界三大悪妻」とは、「ソクラテスの妻クサンティッペ」、「モーザルトの妻コンスタンツェ」、「トルストイの妻ソフィア」のことです。実は、ソクラテスもモーザルトもトルストイも生活能力のないかなりの変わり者だったようです。もしかすると、それを支えた悪妻の方が、必死で生活を守ろうとした常識人なのかもしれません。

### <ソクラテスの妻クサンティッペ>

人前でソクラテスを罵倒し、頭から水を浴びせかけたという逸話が伝えられている。ソクラテスの弟子クセノフォンが「現在はいうまでもなく、過去にも未来にもこれほど耐えがたい女はいない」と著書に記載している。ソクラテスの命日である4月27日が『悪妻の日』とされている。



<モーザルトの妻コンスタンツェ>浪費家で、家事能力がなく、生活はいつも困窮していた。モーザルトが死んだ時、別荘で遊んでいた。モーザルトの葬儀を蔑ろにし、共同墓地に葬った。そのため、モーザルトの墓がどこにあるのか今も分からない。モーザルトの死後、自筆の楽譜や書簡を金目当てで売却したという。

### <トルストイの妻ソフィア>

晩年のトルストイは、印税や地代の受け取りを拒否し、著作権その他の遺産をロシア国民に遺贈しようとしていたが、作品の著作権を取得するなど強欲ぶりを発揮した。愛想を尽かしたトルストイは82歳で末娘を連れて家出し、肺炎で亡くなったが、臨終の直前に、「妻を近づけるな」と遺言したという。



## 「サラリーマン川柳」特集

「サラリーマン川柳」は生命保険会社の「第一生命」が開催している毎年恒例のコンクールです。今年で第31回を迎えます。世相を反映し、クスッと笑える句が多く、毎年癒やされています。過去の1位の作品を取り上げてみました。

2008年<第21回>	のりちゃん 「空気を読め!!」 それより部下の 気持ち読め!!
2009年<第22回>	オーマイカット しゅうち心 なくした妻は ポーニョポニョ
2010年<第23回>	北の揺人 仕分け人 妻に比べりゃ まだ甘い
2011年<第24回>	シーゲ 久しぶり〜 名が出ないまま じゃあまたね〜
2012年<第25回>	事務員A 「宝くじ 当たれば辞める」が 今言葉
2013年<第26回>	マッチ売りの老女 いい夫婦 今じゃどうでも いい夫婦
2014年<第27回>	段三っつ うちの嫁 後ろ姿は フナッシー
2015年<第28回>	イソノ家 皮下脂肪 資源にできれば ノーベル賞
2016年<第29回>	元自衛官 退職金 もらった瞬間 妻ドローン
2017年<第30回>	なおまる御前 ゆとりでしょ? そう言うあなたは バブルでしょ?
2018年<第31回>	あたまで健康追求男 スポーツジム 車で行って チャリをこぐ

## \*\*「贈る言葉」(12)\*\*

### 「挑戦しなければ、夢のままだ」

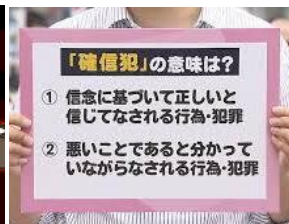
2018年10月7日に行われたシカゴマラソンで2時間5分50秒の日本新記録をたたき出した大迫傑の言葉です。マラソンの他に、3000mと5000mの日本記録保持者でもあります。早稲田大学時代には、2011年の箱根駅伝に出場し、区間賞も獲得しました。「日本流のトレーニングでは世界のトップに追いつけない」と考え、大学卒業後はアメリカのオレゴン州に本拠地を置く陸上競技チーム「ナイキ・オレゴン・プロジェクト」にアジア人として初めて所属し、現在はプロランナーとして活動しています。東京オリンピックでの活躍も期待されています。大迫傑は、「挑戦は、得るものがあるとしても、失うものはない」ともいっています。生徒諸君も恐れることなく、チャレンジを続けてください。きっと得るものがあるはずですよ。



## \*\*「日本語って難しい!」(12)\*\*

### 「確信犯」

「確信犯」という言葉があります。生徒諸君の多くが、「悪いことであると分かっているがなされる行為・犯罪又はその行為を行う人」という意味で捉えているのではないのでしょうか。実は、正しくは「政治的・宗教的等の信念に基づいて正しいと信じてなされる行為・犯罪又はその行為を行う人」という意味なのです。文化庁が行った平成27年度「国語に関する世論調査」においても、「確信犯」の意味を、正しい意味の「政治的・宗教的等の信念に基づいて正しいと信じてなされる行為・犯罪又はその行為を行う人」と回答した人の割合が17.0%だったのに対して、誤った意味の「悪いことであると分かっているがなされる行為・犯罪又はその行為を行う人」と回答した人の割合が69.1%と圧倒的に多く、誤った意味が広く浸透している例の一つとなっています。



発行者の校長は、本年度末に定年退職を迎えます。3年間にわたり「栃高の日」新聞をお読みいただき、誠にありがとうございました。本号が最終号となります。

## 「栃高の日」は「とことんチャレンジ」

3月の「栃高の日」は、私は

【 】

にチャレンジします!

\*【 】の中に自分で選んだものを書き入れよう!

チャレンジ満足度[ 5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1 ]

\*一日を振り返って、チャレンジ満足度を5段階で自己評価しよう!

# 柘中・柘高同窓生特集⑥

柘中・柘高同窓生特集の第6弾は、「芸術分野（美術）」です。近年は、柘高から芸術分野に進学をする生徒はめっきり少なくなりましたが、柘高には、特に、美術分野で優れた才能を発揮した同窓生が多くなります。以前にも紹介いたしましたので、これらの画家となった同窓生が、講堂に掲額された歴代校長の肖像画を描いています。歴代校長が写真ではなく肖像画で残されている高校は、日本広しといえども柘高ぐらいのものです。

氏名 **清水登之** 卒業年・回 1905年・5回（会友）  
出身大学等 成城学校

主な業績等  
\* 栃木市出身の画家、従軍画家  
\* 栃木県立柘木中学校から陸軍士官学校への進学を志し成城学校に転校  
\* 1906年、同校を卒業するも陸軍士官学校への受験に失敗  
\* 1907年、単身アメリカ合衆国へ渡航。しばらくはシアトルで肉体労働に従事  
\* 1912年、オランダ人画家フォック・タダマの画塾に入門  
\* 1917年、ニューヨークへ移り、デザインの仕事をしながらアート・スチューデントズ・リーグでジョン・スローンらに師事  
\* 1921年、第34回アメリカ絵画彫刻展に「ヨコハマ・ナイト（横浜夜景）」が招待出品。一旦は受賞が決まったものの、アメリカ人でなかったことを理由に受賞を取り消された  
\* 1924年、フランス・パリに移住し、三宅克己、藤田嗣治、海老原喜之助、清水多嘉示らと交わりながらサロン・ドートンヌで入選  
\* 1927年、帰国してからは東京を拠点に活動  
\* 1930年、第17回二科展で「地に憩ふ」により二科賞を受賞  
\* 1932年、従軍画家となり多くの戦争画を描く

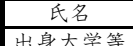
<主な作品>  
『C嬢の肖像』(1915)  
『ヨコハマ・ナイト』(1921)  
『セーヌ河畔』(1924)  
『水兵のいるカフェ』(1926)  
『チャイナタウン』(1928)  
『柘木中学校風景』(1935)  
『江南戦場俯瞰』(1939)  
『難民群』(1941)  
『突撃（原題：攀登勇士）』(1943)  
『汪主席と中国参戦』(1944)  
『工兵隊架橋作業』(1944頃)



氏名 **鈴木賢二** 卒業年・回 1924年・24回  
出身大学等 東京美術学校彫塑科（中退）

主な業績等  
\* 栃木市出身の彫刻家、版画家  
\* 1925年、東京美術学校彫塑科入学  
\* 1929年、東京美術学校退学、日本プロレタリア美術家同盟書記長に就任  
\* 1931年、プロレタリア美術研究所に入る  
\* 1946年、日本美術会北関東支部長に就任  
\* 1949年、日本版画運動協会設立  
\* 1962年、日本ブルガリア友好協会理事に就任  
\* 1963年、キューバ友好協会理事、インドネシア文化協会理事に就任

<主な作品>  
『朝鮮のおじさん』（彫刻）  
『小午飯（こじはん）』（版画）  
『麦』（版画）  
『おっこ』（版画）  
『たきざとり』（版画）  
『おしな』（版画）  
『花』（版画）  
『平和を世界に』（版画）



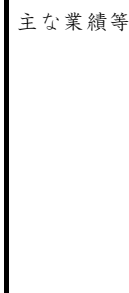
氏名 **塚原哲夫** 卒業年・回 1951年・52回  
出身大学等 東京藝術大学美術学部絵画科日本画科

主な業績等  
\* 小山市出身の画家  
\* 1951年、日本大学医学部に入学  
\* 1952年、東京藝術大学美術学部絵画科日本画科に入学  
\* 1956年、卒業制作『遠い雲』でサロン・ド・ブランタン賞を受賞



氏名 **金子亨** 卒業年・回 1967年・68回  
出身大学等 東京藝術大学大学院美術研究科修士課程（油画専攻）

主な業績等  
\* 1975年、東京藝術大学大学院美術研究科修士課程（油画専攻）修了。フランス美術賞パリ展入選、日伯現代美術展入選  
\* 1980年、第3回北関東美術展入選  
\* 1981年、日仏現代美術展入選  
\* 1982年、毎日国際美術展入選、ホアン・ミロ国際ドローイング・デッサンコンクール入選、第17回モンテカルロ現代芸術国際グランプリ展モノ・ユネスコ委員会賞、第8回ブロードウェイ新人賞展油画部門第1席受賞  
\* 1984年、第1回日本青年画家展4回展優秀賞  
\* 1985年、東京セントラル油絵大賞展入選  
\* 1987年、安井賞展入選、第1回多摩秀作美術展入選  
\* 1991年、東京学芸大学助教授となる  
\* 1993年、第2回人間賛歌大賞展奨励賞受賞  
\* 1998年、東京学芸大学教授となる  
\* 2002年、文化庁在外研修員（スペイン、マドリッド・トレド）  
\* 2007年、『パルテノン神殿の造営目的に関する美術史的研究』（科研：研究代表者、長田年弘）の研究分担者として調査に参加（ギリシャ、ロンドン）  
\* 2008年、『美術教育のビジュアル表現の研究』（科研）の研究代表者としてスペインの美術教育調査（マドリッド、バルセロナ）



氏名 **青木世一** 卒業年・回 1972年・73回  
出身大学等 東京藝術大学大学院美術研究科修士課程（鍛金専攻）

主な業績等  
\* 茨城県出身の造形作家  
\* 1979年、東京藝術大学大学院美術研究科鍛金専攻修了。修了制作サロン・ド・ブランタン賞受賞  
\* 1980年、東京大学工学部機械工学科研究生終了  
\* 1982年、文化庁国内研修員  
\* 1997年、栃木県文化奨励賞  
\* 1998年、第27回現代日本美術展準大賞受賞  
\* 栃木県の高校美術教諭として母校柘高でも教鞭を執り、漫画創作部「まんが甲子園」の最優秀賞  
\* 1988年頃よりベニヤ板を素材にした「木械シリーズ」を発表  
\* 1997年以降、世界の名画を立体キット化した「AOKITシリーズ」の制作を開始

